

新しい持続可能性に関するレポートから、 現在の施策の成功点と今後の改善点を読み解くことができます。

ここ数年、環境、経済、社会の持続可能性の重要性は、草の根活動の対象から役員会で真剣に取り組む優先事項へと昇格しています。二酸化炭素排出量の削減、長期的成長の維持、職場における社会的公正の向上など、あらゆる業界の企業が、より根本的に持続可能な社会を目指すことを理念に掲げています。技術系企業は、最も強く持続可能性の支持を表明する企業の一つです。温室効果ガスの抑制ともなれば、こうした企業は、クラウドコンピューティング、データ分析、人工知能 (AI) などが、二酸化炭素排出量の削減、気候変動のモデル化、新しい対応策の考案に役立つと主張します。

しかし、こうしたテクノロジーにはどの程度、環境的、経済的、社会的な持続可能性があるのでしょうか。iResearch Servicesでは、その実態の把握を目的として、11か国にわたるテクノロジー業界の経営者550人を対象に調査を実施しました。持続可能性についてあらゆる点から質問し、テクノロジー業界でも包括性の高い持続可能性に関する調査となっています。調査に含まれる多数の設問の中で、最も実態を明らかにしてくれたものが1つあります。持続可能な慣行を受け入れるために最も努力しているのはどのテクノロジー分野だと思うか、と問われた回答者は、以下のように答えました。

